

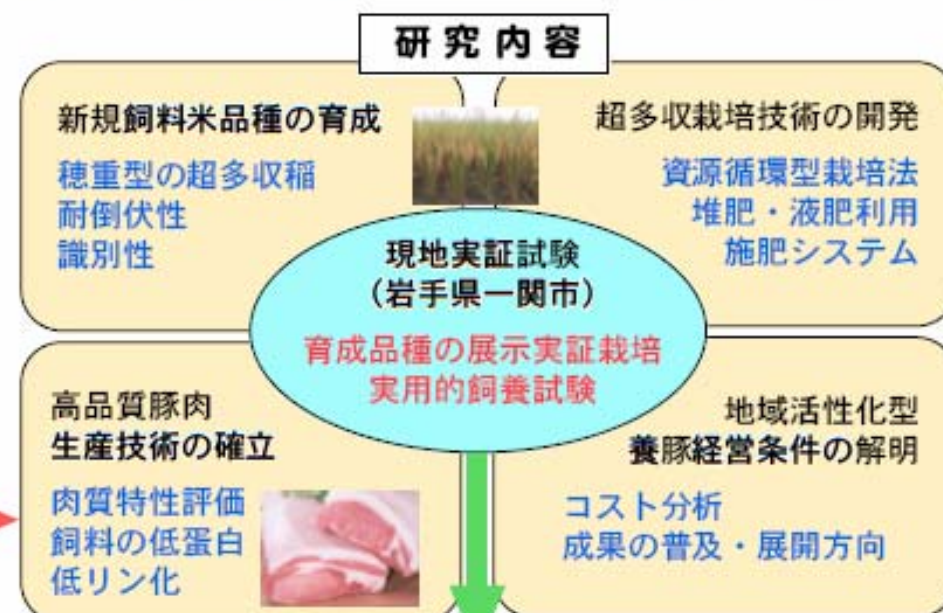
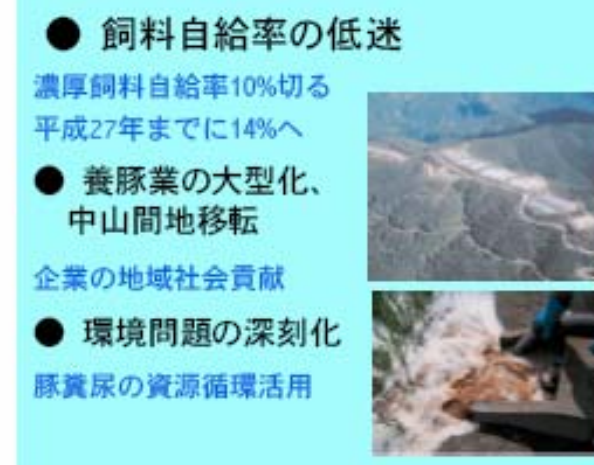
多収飼料米品種を活用した高品質豚肉生産システムの確立

- 1 中核機関・研究総括者
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所 吉田 宣夫
- 2 研究期間
2006～2008 年度 (3 年間)
- 3 研究目的
新規飼料米品種の活用により濃厚飼料自給率 1 % 向上を可能とする養豚技術体系を実証し、地域環境の保全を目指した遊休水田の活用方を提示する。そのため、新規飼料米専用品種の作出と豚糞尿を活用する超多収飼料米生産技術を開発し、飼料米給与豚肉の高品質化を図り、養豚経営においても安定的な収益の確保を可能とする飼養技術を開発する。
- 4 研究内容及び実施体制
 - ① 新規飼料米専用品種の育成 ((独) 作物研究所、(独) 東北農業研究センター)
反収 900kg を可能とする新規飼料米専用品種を開発する。
 - ② 豚糞尿を利用した飼料米超多収栽培技術の開発 ((独) 中央農業総合研究センター、(独) 畜産草地研究所)
豚糞堆肥、液肥を活用した資源循環型超多収飼料米栽培体系を開発する。
 - ③ 飼料米活用型高品質豚肉生産技術の確立 ((独) 畜産草地研究所、富山県農業技術センター)
トウモロコシ多給豚肉との差別化が可能な飼料米給与低コスト高品質豚肉生産技術を開発する。
 - ④ 一関市における実証栽培・給与試験 ((独) 畜産草地研究所、岩手県一関市、(株) フリーデン)
飼料米超多収栽培と農場レベルでの実用的飼養試験を実証する。
 - ⑤ 飼料米活用による地域活性化型養豚経営展開条件の解明 ((独) 畜産草地研究所)
畜産経営的視点からコスト解析し、成果の普及、展開に資する。
- 5 目標とする成果
反収 900kg を可能とする飼料米専用品種開発、豚糞堆肥、液肥を活用した資源循環型超多収飼料米栽培体系を開発、飼料米給与低コスト高品質豚肉生産技術が開発される。これにより、濃厚飼料自給率 1 % 向上、国産豚肉消費拡大、耕作放棄水田 3.5 万 ha の活用に貢献し、中山間地振興、地域活性化と地域環境保全の実現が期待される。

多収飼料米品種を活用した高品質豚肉生産システムの確立



耕畜連携による技術課題



達成目標

反収900kgの玄米収量品種を目指す
豚糞堆・液肥を活用した超多収栽培法
飼料米給与豚肉生産技術の開発

期待される波及効果

- 濃厚飼料自給率1%向上
- 国産豚肉の消費拡大
- 耕作放棄水田35,000haの活用に貢献
- 中山間地振興、地域活性化と環境保全の実現